

＜発表者＞ 指導区名：大隅指導区 氏名：山下 義智

1 発表テーマ

大隅地域における林業労働者の確保・育成対策について

2 テーマの趣旨・目的 <取組課題選定の背景含む>

大隅地域のスギ、ヒノキの民有林の森林面積は約84千haで、人工林面積は約60%の約51千ha、利用可能な7齢級以上の面積はその約90%を占め、特に10齢級をピークに資源も充実している。また、大型木材加工施設の稼働や東アジア向けの木材輸出など旺盛な木材需要に伴い主伐が行われ、その後の再造林推進に取り組んでいる。

昨今の再造林等人工造林の面積の増加（H25～27の平均：212ha→H28～30の平均：315ha）で、下刈面積も増加（H25～27の平均：749ha→H28～30の平均：1,009ha）しているが、林業労働者は近年横ばいから減少傾向で推移（H25～27の平均：423人→H28～30の平均：411人）し、循環型の森林資源の構築が懸念される。また、大隅地域未来の森林づくり推進プランでは人工林伐採跡地の約7割の再造林の実施等が計画されていることから林業就業者の確保・育成対策に取り組む。

3 現状及びこれまでの取組みの成果・課題

① 成果（目標数値等を定めた場合は、その成果を含む）

ア 団地化・担い手対策対部会による関係者一体となった取組の展開

イ 新規就業者確保対策の展開

- (1) 鹿屋農業高等学校（以下「同校」とする。）の生徒（2年生）を対象に森林・林業への就業意欲等を高めるため事業者と高校生交流会を実施（事業者：7社、高校生6名）
- (2) 同校の生徒に特定の職業の紹介行う“進路ガイダンス”を実施（6名）
- (3) 県林業労働力確保支援センター主催の林科系高校生就業支援講習会での事業者との座談会での支援（事業者：3社、高校生17名）
- (4) 未来の担い手確保のため小学生を対象に森林・林業教室等を実施（参加児童：29名）

ウ 若手林業就業者との交流会の実施

若い新規就業者等が短期での離職防止や職員間交流を促進するため新規就業者間の交流会を実施（事業者4社、10名）

エ 大隅の森林・林業のPRを通じた林業就業者確保対策

就業へのきっかけづくりのため大隅流域森林・林業活性化センター（以下

「同センター」とする。)のHP(H30年度末)の開設とH31.4からFB, ブログによる各種情報の発信

オ 林業就業者の育成対策の展開

- (1) 森林施業プランナーの育成研修会を実施(R1:4名を育成し,管内でプランナーが53名)
- (2) 林業就業者の負担軽減のための下刈省力化や機械地拵え研修会を実施(下刈省力化研修:44名,・地拵え研修:34名)
- (3) 林業就業者の技術向上と安全作業の再確認のため“おおすすめ伐木造材チャンピオンシップ”を実施(4事業体から12名が競技,参加者:35人)
- (4) 大隅地域森林整備推進会議等による林業就労改善推進事業等の各種施策の説明による認定林業事業体への育成支援(R1.5.16の参加事業体は15社)

② 課題

林業就業者の確保対策は,同校生徒へ同様の取組の継続と,その他の高校生等へのアプローチも必要。さらにSNS等の情報媒体を活用した雇用の募集なども行う必要がある。また,林業就業者の育成対策は再造林等の増加に伴う下刈作業の省力化等へ向けた取組や森林施業(経営)プランナーの育成

4 今後取組むべき内容

① 具体的手法又は検討方向

- ア 新規就業者確保対策は事業体と同高校生との交流会,“進路ガイダンス”等の取組の継続
- イ その他の高校生への取組は,まず高校の進路担当の先生へアプローチによる林業分野の認知
- ウ 事業体がSNS等を活用して就業募集するIndeedの活用や本県のHPを利用した“kagojob”への登録と合同就職説明会(オンライン)等への参加の働きかけ
- エ 同センターのHP等で林業の活動等を“見せる化”し,就業意欲の喚起
- オ 森林経営プランナーの確保・育成による循環型の森林施業を実施
- カ 下刈作業の労務軽減に繋がる取組の展開

② 理由

新規就業者を確保・育成により事業体の体質強化が図られ,さらに新規林業労働者等を森林経営プランナーへと育成により適切な森林整備が行なわれる。

③ 期待する成果(目標数値等を定めた場合は,その内容を含む)

林業就業者の確保・育成により資源の循環利用が促進され,事業体の体質強化により林業労働者の所得も向上し,地域の活性化に繋がり,さらに森林所有者の森林経営意欲も喚起され,“林業成長産業化の実現”が期待できる。